

数を増して三十四名で始めた。○四月当初傍観的であったM、J、Y子が積極的に参加し、喜々として遊び廻った。○教師の助言なしで赤白同数に分れ遊びを進めるようになった。

○遊びを進めて行くあいだにさらに新しいルールの必要なことがわかって、子どもたちが話し合って決めていった。

・陣地は周りを線で囲む。

・同じ相手と一度以上じゃんけんをしない。

【十月上旬】○九月中旬には他の組と合同でした場合、互いに活気がなかったが、積極的に誘いかけ、強い対抗意識が見られるようになった。○「花一匁」など二組に分れて遊ぶのとき早く正確に分れることができるようになった。

【十一月上旬】○さらに新しいルールが生れた。

・輪を味方からもらうときは、うばい合っていると遅くなるし公平に渡らないので順に並んで待つように子ども達どうしで決めた。

二、今後の問題

以上「輪とりあそび」を中心に子どもの遊びの発展のようすをのべてきたが、これはほんの一例にすぎない。さらにその他の遊びの

種類と友人関係の観察記録(四月～十二月まで)の結果を考察してみると、四月～五月まではグループ単位での遊びであったのが、いまでは遊びを主としたグループの形成がみられるようになり、固定したグループによる固定した遊びがなくなり、友だちのつながりが有機的になった。しかし一方まだどの遊びにでも積極的に加われない子どもが三～四名あるので、対人関係をひろげるのに役立つ興味ある遊びを経験させたいと思う。

(名古屋市立第三幼稚園)

放送を楽しく効果的に

保育の中に取り入れ

れるために

村 上 洸

(一)、過去何年間かを振り返って見る時、放送が、私や幼児達を如何に楽しく、また内面的に多様な影響を与え個性の伸展に役立ってくれたか計り知れない思いがする。私は今年度もまた、放送を楽しく効果的に保育の中に取り入れる事に苦心をせずにはおられない、やむにやまぬ放送への愛情を持っていた。そ

2月	日 曜	指導の留意点	幼 児 の 活 動								放送準備	行事	
			ラジオ	テレビ	健康	社会	官話	自遊	音楽リズム	絵画製作			
2月	①	寒さに負けず着をする	でて来いおじさん アフリカへい	ふくはうち 鬼は外	窓の四隅にまわって 窓尻をきれいに	ストーブに仲良く あたる	テレビの観音 (福は内鬼は外)	手紙開の手入れ かんさつ	こなゆきこんこ ちゅうちゅうおぼ	折紙(ふくすけ)	色紙	協議会	
	②	なわとび、ボール投げのりものあそびなどをやる	でて来いおじさん アフリカへい	すってんころりん (ころちゃんゆきだるま)		火の用心をする	豆まきについて いろいろ		雪やこんこ 大雪小書	紙スタカカラー (ラジオのお話共同製作)	ポスター カラー		
	③	雪だるまの自然物に興味を持てるようにする	こおつうさぎ	町へいったら	うがいをする		火事の集合		ゆうびんやさん 豆まき	クレヨン(大車)		豆 色紙	
	④	冬の野山に散歩をする	豆の本	冬のはなけ		長いものを人の中にもって来ない	今夜の豆まきについて	豆まきの豆と 生の豆の水栽培	雪だるま	鬼の面つくり さんぼう(折紙)			
	⑤	自転車の乗り方を教える	自転運転	水すべり	洗顔、爪切		きのうの豆まきについて		こねた水道	はり絵(豆まき)	色紙		

して何時ものように入園式に次の日から、あたりまえの事のようになり、ごく自然の形で、放送を視聴する習慣を幼児につけていったのである。

入園当初、どこでも履物を入れ、靴掛け、お道具入

れ、便所への行き方、おかたづけなど、ていねいに手をとって徹底的にお教えになると思うのであるが、私はそれと同時に、鐘が鳴ると「さあお椅子を持ってここにおいで」と手まねきして、ラジオやテレビの前に子どもを集めて、子どもと一しょに視聴することを毎日繰り返し続けた。最初であればある程、子どもは何の抵抗もなく、素直に集まって来るものである。勿論中には型破りの子どもがおって、私の組にもどうしてもラジオの側に

来ない子どもが二人いたが、そのような子どもも五月の始め頃になれば何時の間にか皆の中に溶け込んで、前のことは忘れたように熱心な態度でラジオを聴くようになった。(テレビは最初からひとり残らず視聴する)

このようにして私はこの一年間をいつものように放送に明け暮れて過ごしたのである。

(二)、放送を視聴する場合、ただ見るだけ聴くだけで十分ねうちがあるものである。そして、一日の中の他の幼児の活動と全然切り離されている場面がそこに展開するのがあたり前でもあり、それでよいのであるが、私はそれをどうかして幼児に総合的に与えたいと考えて、34年度は苦心をした。それは園で予定

する保育活動や行事と放送番組の内容とを練り合せて子どもに与えるということである。そのために私が去年度やった事は、上の表に掲げたような方法であった。

即ち、まずその月の単元名と目標、指導の留意点を書き、次に、毎日のラジオやテレビの番組を記入して、それに関連のある幼児の活動を予想して書き込み、その後、従来の園での予定される活動を記入し、そうして出来上った表の其の日その日の予定を教師が呑みこんで、総合的に弾力的に、保育におろして行くという方法である。これは非常に実施後の後味がよかつたと思うし、幼児の発達にとても非常に効果的であつたと觀察出来たのである。私は今年度もこの方法をやるつもりであった。然し残念な事に、六月以降私個人の家庭的な事で、たいへん苦しい事件が次ぎ次ぎに起きた為、到底そのような、心のゆとりも時間のゆとりも持つ事が出来なかつた。そのため、勢い放送そのものをその物ずばりで、前後の活動に関係なく、見せるだけ聴かすだけと言うやり方を多く取る事になった。これとは別に、今年度特に放送視聴をしなから心を用了事は、子どもの『手』を通し

て、なるべく原始的な方法で、創造性を伸ばすと言う事と、大自然に直接ふれる機会を多くしたいと言う願ひであった。放送は前にも述べたように、時間時間きちつと集団視聴する習慣が自然についているが、そこで視聴する経験は非常に文化的なものであり、間接的なものであり、集団生活的である。私は放送聴取を熱心におし進めると同時に、しっかりと幼児の創造活動と自然への接触を多くして自由遊びを活発にしたいと願つた。それは理屈でなく、私が幼児と共に視、聴き、遊びながら感じる欲求であつて、ちょうど肉や魚ばかり食べていると野菜や果物がほしくなるのと同じ事かもしれない。

私達は出来るだけ子ども達が楽しく遊べるように、人形のお家の道具をいろいろと苦心してそろえたり、お人形のおふとんやおいこ(ねんねこ)を作つたり、お人形の着物や下着やチャンチャンコを縫つて、いろいろ着せ替えられるように苦心したり、毛糸で帽子を編んだりした。また縫いぐるみの象や兎や犬などを作つたり、棚をこしらえたりした。今日はこれ明日はあれと一つずつ教師の手でふえていく道具を持って、子ども達はどんなに

喜んでおまごをした事か。またどろ粘土は何時もあるように大きいかめに一ぱい作って部屋に何時も置いた。ポスターカラーやザラ紙もいつもたくさん用意した。子ども達は思う存分に自由に作り、描き、走り廻った。子ども達の作品の中にはしばしば放送で視聴した物語りの中の物が現われたりしたのである。

またテレビの中で、田の様子やかかし、秋の虫や落葉など、その時々々の自然について十分視たり聴いたりしたが、その後私達は出来るだけ山や野に出て遊ぶことをした。松林や草原や海の見える丘の上で、雲の動く青空の下で、子ども達がどんなに、小さな手足を振って、とんだりはねたり走り廻ったりしたことか、その時、六領域の中の何が伸びたか、私は知らない、考えようもしなかつた。ただあの子ども達の嬉々とした姿、私は何よりもその姿の中に子ども達の生命の躍動を見た。そして子ども達の発育になくはならない生活がそこにあると思つた。しかしその時、テレビを見た知識が確実に子どもに再認識され、生きた知識となつた事を私は信じたい。

私はこのように、放送を規則正しく毎日保育の中に取り入れると同時に、創造的な自由な自然な子どもの生活を多く取り入れる事につとめた。その結果、一学期入園当初に比べて、子ども達はすべての点に非常に伸びたと観測出来たし、明るく生き生きとわだかまりのない楽しい雰囲気や学級を作ることが出来たと思う。入園当初机にうつぶして動かかなかつた子どもも、「あのね先生、〇〇姉がもう七つ寝たら嫁に行くんよ、ほしたら淋しゅうなあ」。「父ちゃんにきのう大きなテンマルこうてもろうたんで」などと、いちいち家庭での出来ごとまで話しに来てくれるようになるし、ただぬたくることしか知らなかつた子どもが、何でも自分の思うことが伸びのびと描けるようになるし、ラジオを聴いて断片的な事しか話せなかつた子どもが、話の内容をすじ道を立ててお話出来るようになった。

(三)このように振り返って見ると、ラジオやテレビを教師が計画的に総合的に子どもの生活の中に織り込んで行つた去年度(34年)と、多くの場合前後の生活に関係なく、その時間時間で放送を視せるだけ聴かすだけで、取り入れて行つた今年度(35年)と、結果において、

去年度より今年度の子どもが劣っているとは決して思われぬ。

それだのになぜ、教師の私がゆつたりと安心した満足感を味わえないのであろう。

去年度のように総合的な計画表を作製した場合、非常にすつきりと実施した保育のあとが系統的に頭に浮かぶのであるが、今年度の場合は、ごじゃごじゃと入り乱れた乱雑な思いがいらいらと思ひ出されるのである。勿論放送は出たとこ勝負で、行きあたりばつたり、出たものを視せ出たものを聴かせるだけで十分である、と言うことは事実であるし、それで十分効果があるのが放送の特質でもある。しかし、教師が、子どもの経験するであろうことを系統的に整理して頭に入れて置くということは是非必要な事であり、それは、冷静に効果的に幼児の行動を導いて行く事が出来る基となると思うのである。このように考えて、私は是非今後、時間と心のゆとりを取りもどして、どのよう放送を保育計画の中に織り込んで行く方法が、最も楽しく効果的な放送視聴を取り入れた保育であるか」を研究していきたいと思うのである。

(因島幼稚園)